

チュウゴクアミガサハゴロモが各地で多発しています

—果樹・茶樹・植木類・花き等を栽培される生産者の皆様へ—

チュウゴクアミガサハゴロモは中国を原産とするカメムシ目ハゴロモ科の昆虫であり、韓国に分布拡大した際にはブルーベリーに大きな被害をもたらしました。

平成25年に日本国内で初めて発生が確認されて以降、全国で確認事例が増加しており、昨年（令和6年）には国内の農作物への被害が初報告されました。本虫は非常に広範囲の植物を宿主として利用できることが知られており、植物体への吸汁加害や新梢などへの産卵を行います。

7月28日現在、県内全域で新成虫による産卵加害が確認されています。本虫のものと疑われる産卵枝を発見した場合は、切除し、適切な処分を行ってください。

【チュウゴクアミガサハゴロモの特徴】



▲成虫（背面図）



▲成虫（側面定位図）
※定位時の成虫は蛾に似る



▲初齢幼虫（背面図）



▲終齢幼虫（背面図）



▲若齢幼虫（側面図）



▲老齢幼虫（側面図）

幼虫は成長段階に関わらず腹端にワックスで構成される綿毛状の構造をもち、防衛に利用している

※チュウゴクアミガサハゴロモは「不完全変態」の昆虫であり、蛹を経ず、終齢幼虫から成虫になります

【被害の状況】



茶樹の枝条での被害（赤丸内が産卵枝）



産卵中の成虫



産卵された枝（ドウダンツツジ）



数多くの幼虫（左）と成虫（右）が植物体上で吸汁する様子
（大量発生により、糖分を含む排泄物：右写真赤丸内 が植物体上にたまり「すす病」の原因にもなる）

【チュウゴクアミガサハゴロモと在来種アミガサハゴロモの違い】

◆チュウゴクアミガサハゴロモ



成虫の翅の白斑は**三角形**



幼虫は**白色ベース**に
褐色斑が入る



幼虫の腹端に生じる綿毛状構造は
密で縮毛状、基部は類白色。

◆アミガサハゴロモ



成虫の翅の白斑は
つぶれた半円形



幼虫は**赤橙色ベース**に
白色斑が入る



幼虫の腹端に生じる綿毛状構造は
疎で直毛状、基部は赤褐色

問い合わせ先：埼玉県病害虫防除所（熊谷市須賀広 784 [TEL:048-539-0661](tel:048-539-0661)）

作成：令和 7 年 7 月

発行：埼玉県病害虫防除所